

[6 番 山河美鈴さん登壇]

○6番(山河美鈴さん) 山河です。よろしくお願
いします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

島田市の介護保険についてです。新たな介護保
険制度により、補足給付を受けられる条件が厳し
くなり、特別養護老人ホームからの請求額が増え、
その家族の生活をも金銭的に脅かしているという
趣旨の記事をネットニュースで読みました。その
土地、各個人の生活様式にもよるとは思いますが、
少子高齢化と叫ばれる今、日本でこうした事態に
陥っている現状は真摯に受けとめなければいけな
いことだと思いました。

少子高齢化に伴い、今後社会保障に巨額の費用
がかかります。しかし、その財源の確保が追いつ
かないという現状にある中で、自分たちの親世代
や自分たちの世代が介護を必要とするとき、ちゃ
んとした社会保障が受けられるのかと不安に思い
ます。高齢者になっても、本人やその家族が不安
のない人間らしい生き生きとした生活を送れるよ
うな社会を望んでいます。

島田市の介護保険をはじめとする高齢者福祉に
ついて伺います。

質問(1)島田市の高齢者と介護保険の現状につ
いて。

質問(2)国の政策だけに頼るだけでなく、私た
ち一市民にできることはないか。

質問(3)今後の島田市における高齢者福祉の計
画についてです。

よろしくお願います。

[6 番 山河美鈴さん発言席へ移動]

○議長(仲田裕子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 山河さんの1の(1)の御質問
からお答えをいたします。

まず、島田市の高齢者の状況でございますが、
平成27年度末、3月31日現在、この人口は10万

127人で、そのうち高齢者と呼ばれる65歳以上の
方が2万9,217人で、高齢化率は29.2%となっ
ております。また、介護サービスを受けるための介
護認定、これを受けている方が3,681人で、認定
率は12.6%となっております。介護保険のサービ
スの種類は非常に多くて、施設に通うデイサービ
スをはじめ、ヘルパーさんに自宅へ来てもらうホ
ームヘルプサービス、施設へ入所して介護を受け
る特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホ
ームなどのほか、車椅子や歩行器のレンタル、さ
らに住宅に手すりやスロープを設置する住宅改修
など多種多様なサービスがございます。

これらのサービスは民間の介護サービス事業者
が提供しており、市内の事業者の数は現在、デイ
サービスが44事業所、ホームヘルプサービスが11
事業所、特別養護老人ホームが7事業所、認知症
高齢者グループホームが12事業所となっております。
サービスの利用に当たっては、担当のケアマ
ネージャーが利用者の意向を伺いながら、さまざま
なサービスを組み合わせたケアプランを作成し、
これに従ってサービスを利用することになります。

また、介護保険サービスに要する費用について
は、利用者が費用の1割または2割を事業者へ支
払い、残りは保険者である市が事業者へ支払う仕
組みになっています。市が支払う分の半分は国・
県・市の税金で賄い、半分は40歳以上の方々に介
護保険料として負担をしていただいております。
平成27年度の島田市の介護保険に係る費用は、全
体で72億円でありました。その財源は国・県・市
の税金が合計で36億円、40歳から64歳までの方
の負担が20億円、そして65歳以上の方の負担が16億
円となっております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいた
します。市民の皆様にごできることはたくさんある
と思っております。その中でも特に重要なことが2つあ
ると考えています。1つ目は、高齢者になっても
介護が必要な状況とならないために、そういった

取り組み、いわゆる介護予防の取り組みに一人一人が努めていただくことであります。国の研究機関の予測では、島田市においても2025年までは高齢者人口の増加が続いていくとされています。それに伴って、介護に要する費用の総額も市民一人一人の負担も増加してまいります。負担を軽減するためには、高齢になっても介護を必要としない健康な状態を保つことが最も効果的であります。いつまでも健康な心身を保持するための介護予防の取り組みは、年齢に関係なく誰にでもできる大切な取り組みであります。

そこで、島田市でも介護予防のためのさまざまなメニューを用意しています。例えば、島田市歌にあわせて体を動かす島田しっかり元気体操の普及ですとか、身体機能の向上や脳の活性化などを目的とした講座の実施、さらにレクリエーションや趣味活動などで楽しい時間を過ごす介護予防サービスの提供など、介護予防に効果的な事業を実施しております。

市民の皆様ができる2つ目は、隣近所同士が互いに支え合う、いわゆる互助の体制づくりに積極的に参加していただくことであります。心身の機能の低下が見られ始めた高齢者には、地域住民やボランティアが行う生活支援のサポートが極めて有効であります。場合によっては、高齢者自身がサポートする側に回ることもあります。地域の中で人と人同士が触れ合う互助の考え方が、これからの地域社会には必要不可欠であると考えており、市では互助の仕組みづくりを推進しています。

市が推進している事業の一つとして、居場所づくり事業があります。地区の公会堂などに高齢者が気楽に集まり、交流する機会を提供するボランティア団体や自治会などを支援しております。また、プラザおおるりでは心身に不安を持つ高齢者のトレーニングを高齢者のボランティア団体がサポートするという事業も実施しております。さらにひとり暮らし高齢者世帯の電球替えですとかご

み出し、こういったことを地域住民やボランティアが支援する体制づくりというものに今取り組んでおります。これからは、どれもが市民一人一人ができることの一つだと考えております。これらのごこと、今お話ししたことでございます。介護の専門家であるホームヘルパーでなくてもできる支援を、市民の皆様一人一人が可能な範囲で実践することで介護に要する費用を抑制し、将来にわたり介護保険制度の継続が可能になると考えています。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。市では団塊の世代が75歳以上になり、高齢者人口がピークとなる2025年を目標に、高齢者が住みなれた地域で暮らし続けられるよう地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを行っております。地域包括ケアシステムとは、住まい、医療、介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される体制のことで、高齢者が心身ともに健康で不安のない生活を送ることを可能とし、同時に介護に要する費用の増加を抑制するための切り札と考えられております。市では平成27年度から平成29年度までの3カ年を計画期間とする第7次高齢者保健福祉計画の中で、地域包括ケアシステムの構築を重要施策と位置づけ、医療と介護の連携の推進や、広く市民を対象とした認知症に対する知識の普及活動などのさまざまな事業を展開しております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（仲田裕子議員） 山河美鈴さん。

○6番（山河美鈴さん） これまで高齢化や介護の問題についてテレビなどでは目や耳にしてきましたが、実際のところはよくわからないことが多く、漠然とした不安がありました。今市長の答弁を伺い、島田市の高齢者や介護保険の状況が少しずつ

わかってきました。島田市の介護保険の現状について介護認定者の数や費用などの数値を伺いましたが、これらはほかの市や町と比較してどのような位置にあるのでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 山河さんの再度の御質問にお答えをいたします。

初めに高齢化の状況についてでありますけれども、平成27年度末の島田市の高齢化率ですが、先ほど市長答弁にありましたとおり29.2%ということです。これは、静岡県下の平均が27.6%ということで、県の平均よりも高くなっております。順位的には、県内の35市町中、14番目に高いという割合になっております。近隣の藤枝市、焼津市と比較したときに、藤枝市、焼津市、両市とも27.6%ということで県の平均と同じような数字になっておりまして、島田市のほうが両市よりも高くなっているという状況があります。

それから次に、介護保険の関係に係る要支援・要介護の認定率についてですけれども、平成27年3月末現在で県の平均が15.4%であったのに対しまして島田市は14.1%で、低いほうから県下では12番目というような状況です。現在は、昨年度から実施をしました介護予防日常生活支援総合事業という事業を開始したという影響もございまして、先月6月末現在でこの認定率がさらに減少しておりまして12.5%になっております。これは大変低い数値でございまして、認定を受ける必要のない元気な高齢者が多い市であるということが言えるかというふうに思います。

それからもう一つ、65歳以上の方に負担をしていただいております介護保険料について申し上げたいと思います。この介護保険料は市や町ごとの高齢者の人数でありますとか所得の状況、あるいはまた介護保険にかかる費用などによりそれぞれの市あるいは町がそれぞれ設定をするというものでございます。平成28年度の介護保険料の月額で

すけれども、全国平均が5,514円、県の平均が5,124円となっているのに対しまして、島田市は4,550円ということで、県内35市町中で3番目に安い金額というふうになっております。これは他市と比較した場合、非常に軽い負担であるということが言えるかというふうに思います。

以上、介護保険の状況につきまして御答弁をさせていただきます。

○議長（仲田裕子議員） 山河美鈴さん。

○6番（山河美鈴さん） 今の答弁を伺い、島田市はほかの近隣の市町と比較した場合、高齢化率は高いものの、要支援や要介護の認定を受ける必要のない元気な高齢者が多いということと、介護保険料の負担が軽いということがわかりました。

また、先ほどの市長の答弁を伺い、これからの超高齢化社会では地域での支え合いがとても大切であることがわかりました。私は、若い世代の人たちがこの問題に対してもっと興味を持って、積極的に活動に参加することが大切だと思います。特に島田市というこの土地に生まれ、育ってきた市内の小・中学生や高校生に島田市の現状をわかってもらい、将来を考える機会があればいいと思います。島田市においてそのような施策はあるのでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 山河さんの再度の御質問にお答えをいたします。

若い世代への啓発事業の一つといたしまして、認知症サポーター養成事業がございまして、これは市民を対象に認知症に関する知識や接し方についての講座を開催しまして、認知症の方やその家族を支援する認知症サポーターを養成するという事業でございまして、認知症サポーターの皆さんに地域で活動してもらうことで、認知症の方にとって暮らしやすい地域づくりを推進するというものでございまして、平成18年から実施をしております。平成27年度までに受講者の数が

7,668人という大勢の方に受講をしていただいております。中でも小・中学校や高校での開催が大変多くなっておりまして、これまで2,236人という大勢の方に受講していただいております。

また、先ほど市長答弁にもありました地域包括ケアシステムの構築においてこれから必須になります地域住民による生活支援サービスの仕組みづくりのため、最初の櫻井さんからの御質問にもお答えをいたしましたけれども、静岡県立大学との共同研究を実施しております。その中で、学生の皆さんには生活支援サービスの体験を通じた実態調査でありますとか、サービスの提供体制づくりのためのガイドブックの作成などにも取り組んでいただいております。

それから、このほか新たな取り組みとしまして、次期の島田市高齢者保健福祉計画の策定作業の中で、本年度、多世代ワークショップの開催を予定しており、若い世代の方々からも意見を聞いてみたいというふう考えております。

山河さんが言われておりますように、高齢者の問題について若い世代の方々に関心を持っていただくことは大変重要なことだというふうに思っております。誰もがいずれは高齢者になるわけですから、若い世代をはじめ市民の皆様を描く将来のイメージを伺いながら意見を出し合ってください、協働していくことで市民の皆様と一緒に、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（仲田裕子議員） 山河美鈴さん。

○6番（山河美鈴さん） 私は今、来年の春から新社会人となるべく就職活動をしています。この就職活動を通して自分の将来について深く考えていく中で、今後必ず来る自分たちの親世代や自分たち自身の高齢化に対して漠然とした不安がありました。しかし、今回の質問を通して、まずは自分の住んでいる島田市がどのような状況にあり、ま

たどのような政策が行われているかを冷静に知ることと判断することが大切だと感じました。また、来年からは一人の社会人として島田市に貢献できるような人になりたいと強く感じました。ありがとうございます。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 山河さん、本当に今の人口減少、そしてまた少子超高齢社会の現実を踏まえたときに、高齢の方たちにいかに地域の中で安心して健康に暮らし続けていただけるかということがとても大事な課題である。そこに着目をしていただいたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。私も、島田市は高齢化率はやや高いものの、元気であるお年寄りのパーセンテージは県内でもトップクラスに高いのです。皆さん元気なのです。そういった方たちがやはり地域活動に参加していただける、そういった仕組みをつくっていくことが大事かと思っています。

それともう一つ私が常日頃思っていることは、子育ての結果が老後にあらわれるとも思っているのです。今、山河さんが自分たちの親の世代、あるいは自分たちの老後というお話をいただきました。やはり子育てのときにどうやって親子関係を紡いできたか、その愛着を育んできたか、地域の中で安心して暮らせる社会や地元ふるさとに対する思いが育っていたか、そういったことがやはり親が介護を要するようになったとき、あるいは自分たちが介護を必要となったとき、子供との関係の中であらわれてくると思っております。今後ともよろしく願いいたします。